

7. 大阪湾・瀬戸内海

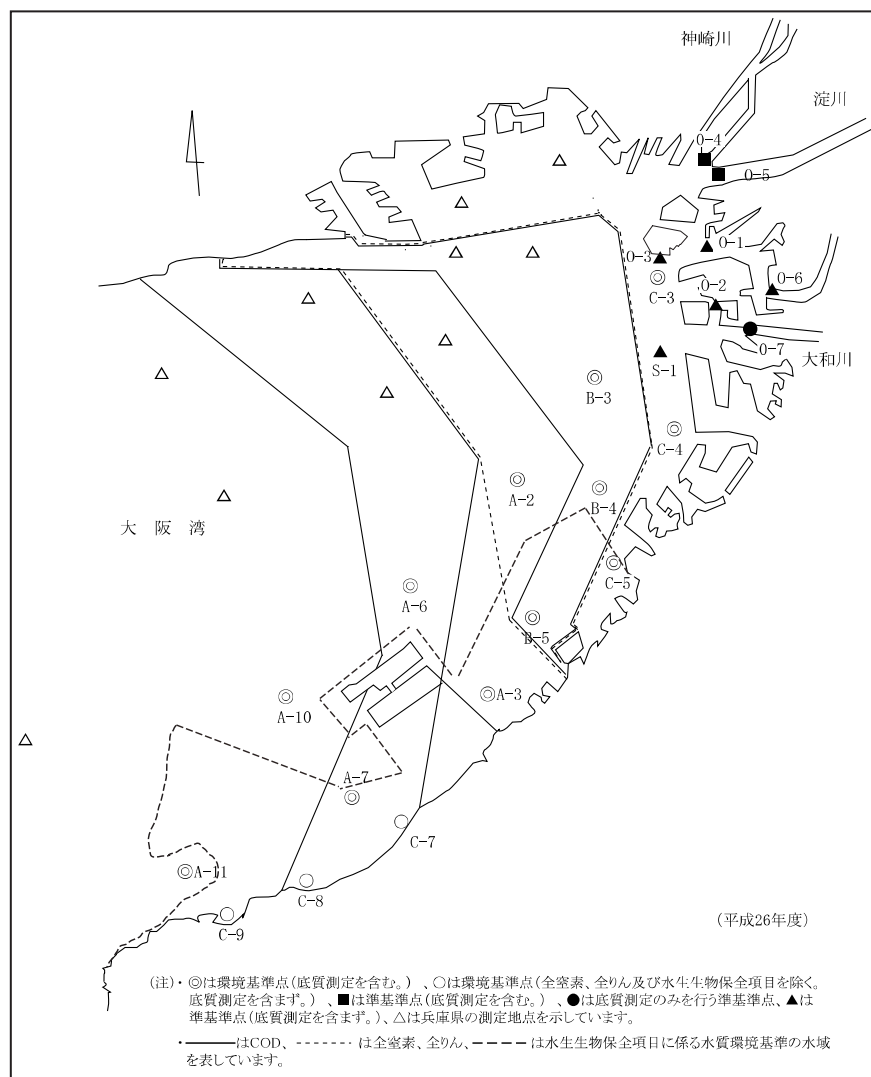
大阪湾は瀬戸内海の東側に位置し、周囲を陸に囲まれた閉鎖性水域である。瀬戸内海沿岸では、昭和48年に瀬戸内海環境保全特別措置法が制定されて以降、COD総量規制やりん等の削減指導、下水道整備などが行われており、水質は全体的には改善してきたが、近年は横ばい状態である。また、依然として赤潮が発生し続けている。

(1) 大阪湾内の水質

大阪湾のCODは、12の水域に分けそれぞれA(2mg/L)、B(3mg/L)、C(8mg/L)の類型指定がされている。表層、底層とも湾奥部になるほど高くなる傾向を示している。令和6年度は、C類型の水域は環境基準を達成しているが、A、B類型の水域では環境基準を達成していない水域がある。また、令和6年度のCODの年平均値はA、B、C水域、それぞれ2.6、3.1、3.3mg/Lであった(図3-66)。湾全体の透明度の年平均値は、昭和54年頃までは3m台前半であったが、年ごとの変動はあるものの、徐々に高くなっている。令和6年度は4.9mであった(図3-67)。

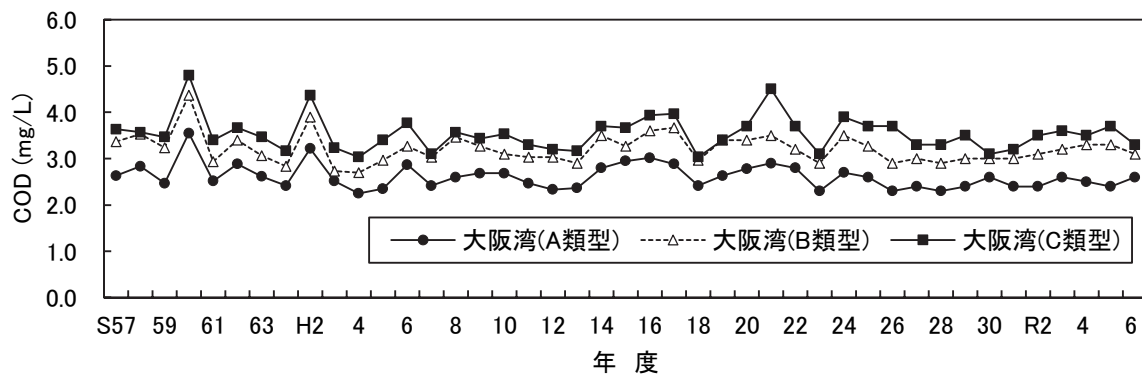
(2) 大阪湾での赤潮の発生

大阪湾は、閉鎖性水域であるため、富栄養化に伴う赤潮が発生しやすい。令和5年の赤潮発生件数は19件であった(図3-68)。



【図3-65 大阪湾の海域】

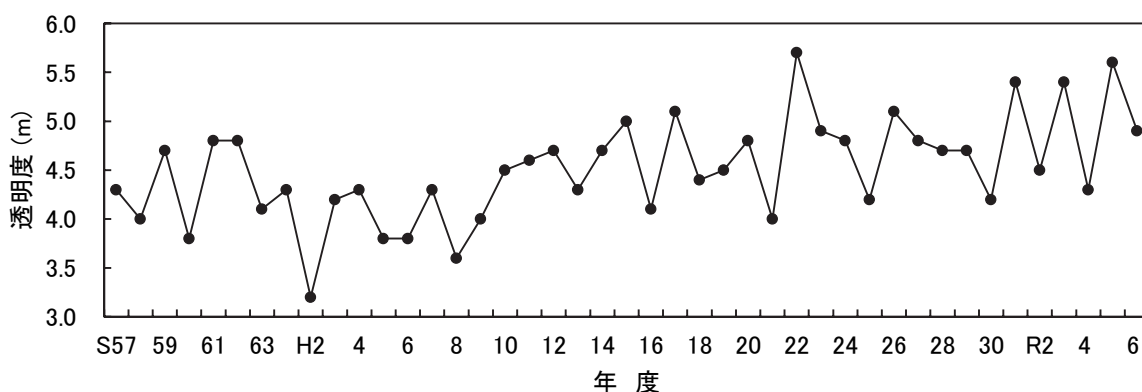
大阪府「環境白書」より作成



注) 採水地点：表層(水深1.0m)

注) 数値は大阪湾5水域の環境基準点12地点の年平均値を類型ごとに平均した値(港内7水域は含まず)

【図3-66 大阪湾のCOD(年平均値)の推移】

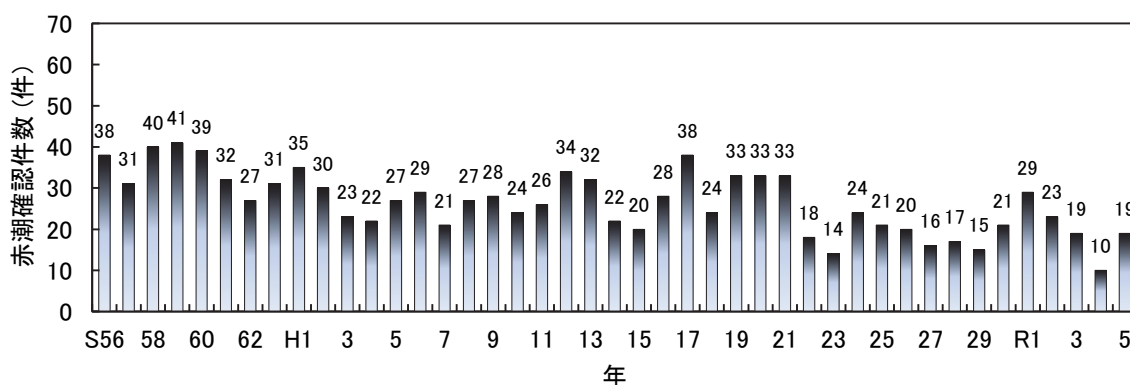


注) 数値は大阪湾5水域の環境基準点12地点の年平均値を類型ごとに平均した値(港内7水域は含まず)

【図3-67 大阪湾の透明度(年平均値)の推移】

注) 平成27年度以降の値は、各年度のデータ集計時点でホームページに掲載されている暫定値で記載

大阪府 HP「公共用水域の水質等調査結果」より作成



【図3-68 大阪湾の赤潮確認件数の推移】

注) 複数の月にまたがるものを計上

水産庁瀬戸内海漁業調整事務所「瀬戸内海の赤潮」より作成